

**授業概要**

今日世界的にも大きな問題となっている人種差別や排外主義の問題を、アメリカ合衆国とラテン・アメリカを軸に、植民地主義と奴隷制度などの歴史的な関係性において講義する。また、後半には、関連事項として、人権、民族自決、人道的介入などの問題を、植民地主義や帝国主義との関係で講義する。

**授業計画**

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回  | アメリカとは何か              |
| 第 2 回  | 植民地主義とは何か             |
| 第 3 回  | 差別や人種をめぐる基本概念         |
| 第 4 回  | 大西洋奴隷貿易とラテン・アメリカ      |
| 第 5 回  | ラス・カサスとセプールバダ         |
| 第 6 回  | 近代世界システムと世界商品         |
| 第 7 回  | シュガープランテーションとラテン・アメリカ |
| 第 8 回  | フランス植民地主義とハイチ         |
| 第 9 回  | アメリカ合衆国の奴隷制度とカリブ海の関係  |
| 第 10 回 | 綿花プランテーションと奴隷制度       |
| 第 11 回 | 香港と苦力貿易一年季奉公制度との関連で   |
| 第 12 回 | アメリカ合衆国と国家統一原理        |
| 第 13 回 | アメリカ合衆国における構造的差別の問題   |
| 第 14 回 | 人権と帝国主義の問題            |
| 第 15 回 | まとめ                   |
| 第 16 回 | 期末試験                  |

**到達目標**

今日、国際社会は一つの分岐点にあると考えられる。冷戦崩壊以降、普遍的価値と見なされ、人類の到達目標と考えられてきた西洋民主主義が危機に陥っているとする見方が浮上すると同時に、相対的に中国の存在感が高まり、世界を「民主主義対権威主義」のような二元論で解釈する風潮も高まっている。本講義は、アメリカ合衆国とラテン・アメリカを軸に、それらの地域とのアジアの関りも踏まえながら、差別や排外主義の問題を、植民地主義や奴隷制度などの歴史的関係性の中で理解し、「対立」ではなく、「共存」のために、どのような考え方が必要であるか学ぶことを目標とする。

**履修上の注意**

本講座の受講に際しては、必ずしも地域文化論Ⅰの受講を要件としません。履修：積極的に取り組む意思が求められます。出席・遅刻等の扱いは、大学の規定に準じます。授業：日本語で行います。適宜映像資料も取り入れます。また、本講義は、歴史学会の研究成果にもとづいた情報の提示と考察を行う場であることを念頭に受講すること。

**予習・復習**

クラス内で適宜指示します。授業内における取組も加味します。大学既定の出席回数を満たさない場合は、期末試験受験資格を喪失します。

**評価方法**

学期末筆記試験（満点 100 点）

**テキスト**

- ・教科書名：人道的帝国主義—民主国家アメリカの偽善と反戦平和運動
- ・著者名：ジャン・プリクモン
- ・出版社名：新評論
- ・出版年（ISBN）：978-4-7948-0871-4